

「平成 28 年度 危機的な状況にある言語・方言サミット（奄美大会）・与論」開催報告

平成 28 年 11 月 13 日（日）に与論町総合体育館（砂美地来館）（鹿児島県大島郡与論町茶花 2045）で「平成 28 年度 危機的な状況にある言語・方言サミット（奄美大会）・与論」を開催しました。主催は、文化庁、鹿児島県、与論町、与論町教育委員会、琉球大学、国立国語研究所です。

◆当日は次のようなプログラムに沿って、いろいろな発表が行われました。

9:00 歓迎セレモニー

9:30 開会式

9:45 危機的な状況にある言語・方言の現況

- 調査研究の結果報告
- 継承のための取組事例報告（豊見城市、与論町）
- 協議

11:35 危機的な状況にある言語・方言の聞き比べ

13:10 危機的な状況にある言語・方言による語り

- アイヌ語による語り
- 国頭方言（与論方言）による語り

13:45 与論町の取組成果（与論小学校）

14:00 講演

「吾きゃシマぬウタ吾きゃシマぬユムタ」（私のシマの唄、私のシマの言葉）

講演者：朝崎 郁恵（奄美島唄唄者）

15:10 閉会式

◆歓迎セレモニーでは、地元の子供たちがエイサーを披露しました。



◆「危機的な状況にある言語・方言の現況」の報告では、各地の言語・方言の状況について、次のような発表が行われました。

琉球大学 石原昌英

「消滅の危機の程度に係るユネスコの尺度と沖縄県内各方言の状況」

国立国語研究所 木部暢子

「八丈、奄美、与論・国頭、被災地の状況」

北海道大学 北原次郎太

「アイヌ語学習の現状と課題」

沖縄県豊見城市教育委員会 島袋幸司，琉球大学 狩俣繁久

「沖縄県豊見城市の「豊見城市しまくとぅば読本」制作について」

与論町教育委員会 町岡光弘，内野優三郎，与論民俗村 菊秀史

「ユンヌフトゥバ（与論方言）の保存・伝承の取り組みについて」



◆「言語・方言の聞き比べ」では、「ぼくらは みんな 生きている。生きているから歌うんだ。ぼくらは みんな 生きている。生きているから 悲しいんだ。ミミズだって、オケラだって、アメンボだって、みんな みんな 生きているんだ。友達なんだ。」の歌詞を、八丈、奄美、国頭（与論）、沖縄（沖縄市）、宮古（宮古島）、八重山（石垣）、与那国、アイヌのことばで語り、各地の方言がどれだけ違うか、聞き比べをしました。



◆「危機的な状況にある言語・方言による語り」では、矢崎春菜さんがアイヌ語で「チロンヌプ アイヌ コチャランケ（キツネのチャランケ）」、「ポイサロ・シネッ（小サルが一匹）」、「コタン シッチレ モシ」シッチレ（村焼き国焼き）」のお話を、菊秀史さんが与論方言で「ミンギヌヌ クレージキ（人間の位付け）」のお話を語りました。

◆与論小学校の方言教育の取り組みの報告のあと、奄美島唄唄者の朝崎郁恵さんの講演「吾きゃシマぬウタ吾きゃシマぬユムタ」（私のシマの唄、私のシマの言葉）と朝崎さんの島唄の演奏が行われ、会場は島唄の響きに包まれました。

◆最後に、与論中学校3年生の川崎佳都さん、2年生の池田匡佑さん、与論民俗村の菊千代さんが「大会宣言」を読み上げ、「平成28年度 危機的な状況にある言語・方言サミット(奄美大会)・与論」が締めくくられました。



◆来場者は約260名、アンケート調査によると、「とても満足」「まあ満足」という回答が98%にのぼりました。

